



## 今回は 金沢大学法友会によるセミナー の報告です。

◇ 文系3クラスが、各2時間ずつのアクティブ・ラーニングを体験！

日 時： 2020年2月14日(金)

会 場： 関高等学校 彩雲館（2階大研修室）

対 象： 2年生文系クラス 各クラス2時間

講 師： 金沢大学生14名 人間社会学域法学類公認サークル「法友会」所属

指 導： 福本知行氏 金沢大学准教授 <http://kanazawahouyu.wixsite.com/houyukai>

テーマ： 「平等をどう考えるか」

内 容： 大学生をリーダーに、高校生が少人数のグループを作り、アクティブ・ラーニング形式の授業を行いました。「リスクを被った時の格差は補償すべきか」「すべての人の最低限度の生活は保障されるべきか」など、具体的なテーマに関し、大学生と高校生がじっくりと議論しました。

昨年度に続く2回目の法学セミナーです。今年の総合ファシリテーターは本校卒業生。休憩時間や授業終了後も、大学生と高校生との熱心な会話が続きました。



## 生徒の感想

■自分の個人的な感情ではなく、法の基準に従うことで「平等」という考えに近づくことができるのではないかと思いました。実際に具体的な例を用いて考えてみたのが楽しかったです。

■グループの中で様々な意見を出しあって、一番いい方法を考え出すことができた。また、すべての人が平等になるのが一番いいことだけど、平等にするのが難しい場合が多いから、しっかり考えていくことが大切だと感じた。

■全員が納得するために話し合うのは難しいことだと思った。普段はあまり触れない「法学」だったが、セミナーを体験してみて、改めて規則の大切さについて知ることができたし、方角に少し興味をもてた。大学生の方々も親しみやすく楽しかった。

■今まで法学部って言われても、何を学んでいるのか具体的にはわからなかったけど、今回のセミナーを通して、何を学ぶのか少しわかったし、色々な観点や状況によって、様々な意見とか考え方があったりするの面白いと思った。

■実質的な平等とは、あえて不平等な（＝不均一な）扱いをすることで実態を考慮した平等をめざすという、逆説的な考え方なのだと改めて認識できた。形式的／実質的平等どちらでも、多くは日本の政府がその平等を達成しようとするのだろうけれど、最近のクルーズ船の問題のように、どこまでが国の責任なのか考えてみたいと思った。

■それぞれの意見や考え方を伝えて議論したりすることが普段あまりないので、とても意味のある時間を過ごしたと思う。ちゃんとした根拠をもって意見を述べる難しさや大切さがわかった。大学生の人が熱心にサポートしてくれたのも、とてもよかったと思う。

■論証を基にして結論を出したりすることが、論理的な主張ができていなぁと実感し面白いと思った。現役大学生との交流も楽しくできて、有意義に過ごすことができた。今までは、法学に興味を持っていろいろと情報をまとめてみようということがなかったけれど、社会で生きていく中では切っても切れないものなので、専門的な知識を得て、賢く法と関わっていきたいと思った。